

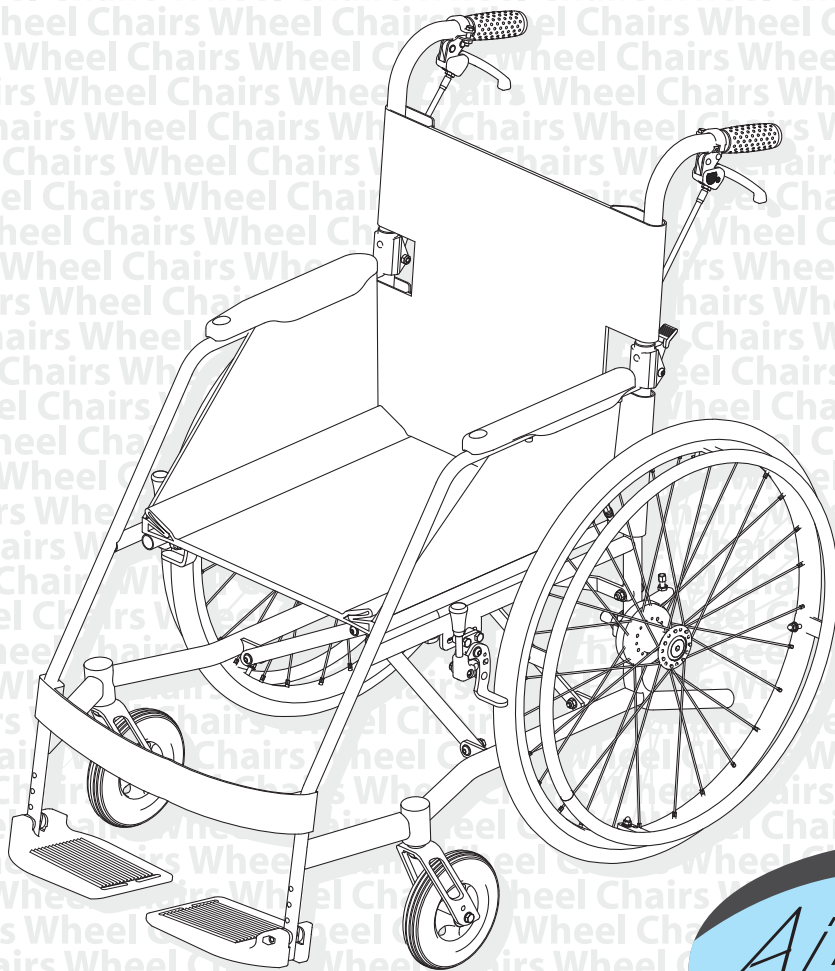
マツナガの軽量車いす

エアライト

取扱説明書

保存用

保証書付



AirLight

MATSUNAGA
MANUFACTORY CO.,LTD.



MATSUNAGA

このたびは、(株)松永製作所の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や正しい使い方が説明してあります。ご使用になる前に、必ずお読みください。
また、保証書が付いておりますので紛失しないように大切に保管してください。

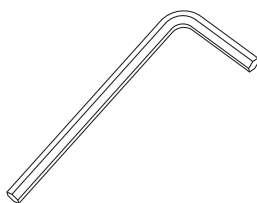
車いすが、使用者の身体に合わない状態で乗らないでください。健康をそこなう恐れがあります。
そのような場合は、購入されたお店、またはかかりつけの病院にご相談ください。

- お買い上げの製品は改良などによりこの「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店、または直接弊社までお問い合わせください。

付属品

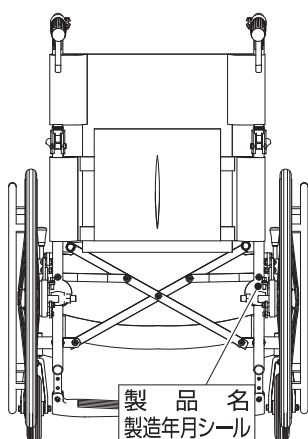


取扱説明書



六角レンチ 1本
(対辺5mm)

購入された製品の機種名をご確認ください。
機種名は、下記位置に表示してあります。



目次

安全にお使いになるためのご注意	2
機種別寸法一覧・各部の名称	4
機種別機能一覧・機能説明	5
車いすの広げ方・折りたたみ方	6
車いすの広げ方	6
車いすの折りたたみ方	7
安全にお使いになるための使用方法	8
ブレーキの使用方法	8
フットサポートの高さ調整	9
使用方法	10
乗り方・降り方	10
動かし方	11
介助の仕方	12
外出時の注意	13
ご使用の前に	15
使用の際の注意事項	16
車いすのオプション	17
安全ベルト・その他	17
もしこんなトラブルが発生したときは	18
車いすのお手入れの方法	18
車いす 点検シート	19
MEMO	20
保管場所・保証・アフターサービス	21
保証書	21

安全にお使いになるためのご注意



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく内容の説明



この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。



この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。



警告

(禁止)



しては
いけない

- 故障、異常のあるときは、使用しないでください。
転倒・転落事故の原因となります。
- 改造しないでください。
改造によって車いすの部品の破損、脱落などで安全性が低下して転倒・転落事故の原因となります。
- バックサポート折りたたみのロックレバーに、かばんなどを引っ掛けないでください。(→P.6)
ロックが解除され、転倒・転落事故の原因となります。
- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。(→P.8)
ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、転倒・転落事故の原因となります。
また、タイヤがパンクする原因になります。
- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。(→P.10)
車いすがバランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。(→P.16)
転倒・転落事故の原因となります。

(強制)



必ずして
いただく

- 坂道の登り下りは、介助者の方に支えていただいで行ってください。
スピードが出たり、バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。
- 道路の通行は、必ず右側を通行してください。(歩道がある場合は歩道を通行してください。)
道路交通法規を守らないと、交通事故の原因となります。
- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドなどへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。(→P.8)
車いすが動き、転倒・転落事故の原因となります。
- バックサポート折りたたみのロックピンが、確実にロックされていることを確認してください。(→P.6)
転倒事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。(→P.14)
車輪が溝にはり、転倒・転落事故の原因となります。

⚠ 注意

(禁止)



しては
いけない

- バックサポートに重いものを引っ掛けしないでください。(→P.6)
車いすが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。
- 車いすを拡げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。(→P.6)
パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。
- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。(→P.11)
摩擦により、手にケガをする恐れがあります。
- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。(→P.11)
手や指を挟んでケガをする原因となります。
- タイヤを持って車いすを操作しないでください。(→P.11)
ブレーキに手があたりケガをする原因となります。
- バックしながら、急停止しないでください。(→P.16)
転倒・後方転落事故の原因となります。
- 火気の近くに置かないでください。(→P.16)
タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。
- バックサポートパイプのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。(→P.12)
バックサポートパイプが曲がったり折れたりして、転倒・転落事故の原因となります。
- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。(→P.12)
使用者が車いすから転落して事故の原因となります。
- 使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。(→P.13)
パイプが外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。(→P.11)
バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。

(強制)



必ずして
いただく

- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。
フットサポートが脱落し事故の原因となります。
- 制動用ブレーキレバーを握る際には、指を挟まないようにしてください。(→P.8)
- 介助者の方は、制動用ブレーキレバーを両側同時にかけてください。(→P.8)
バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- 車いすを拡げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認してから座ってください。(→P.6)
パイプが曲がったりして、転倒・転落事故の原因となります。
- 安全ベルト装着機種は、必ず安全ベルトを締めてください。(→P.17)
衝撃などで転落し事故の原因となります。
- マジック式安全ベルトの場合は、糸くずや汚れを取り除いてください。(→P.17)
粘着力が弱くなり衝撃を受けた時外れ、転落事故の原因となります。
- フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。(→P.9)
路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、
転倒・転落事故の原因となります。
- 車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。(→P.10)
車いすが動いたりしてバランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- 坂道を下るとき介助者の方は下り坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに
走行してください。(→P.13)
前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり前のめりとなり、転倒事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋、踏み切りのレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。(→P.14)
車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転落・転倒事故の原因となります。

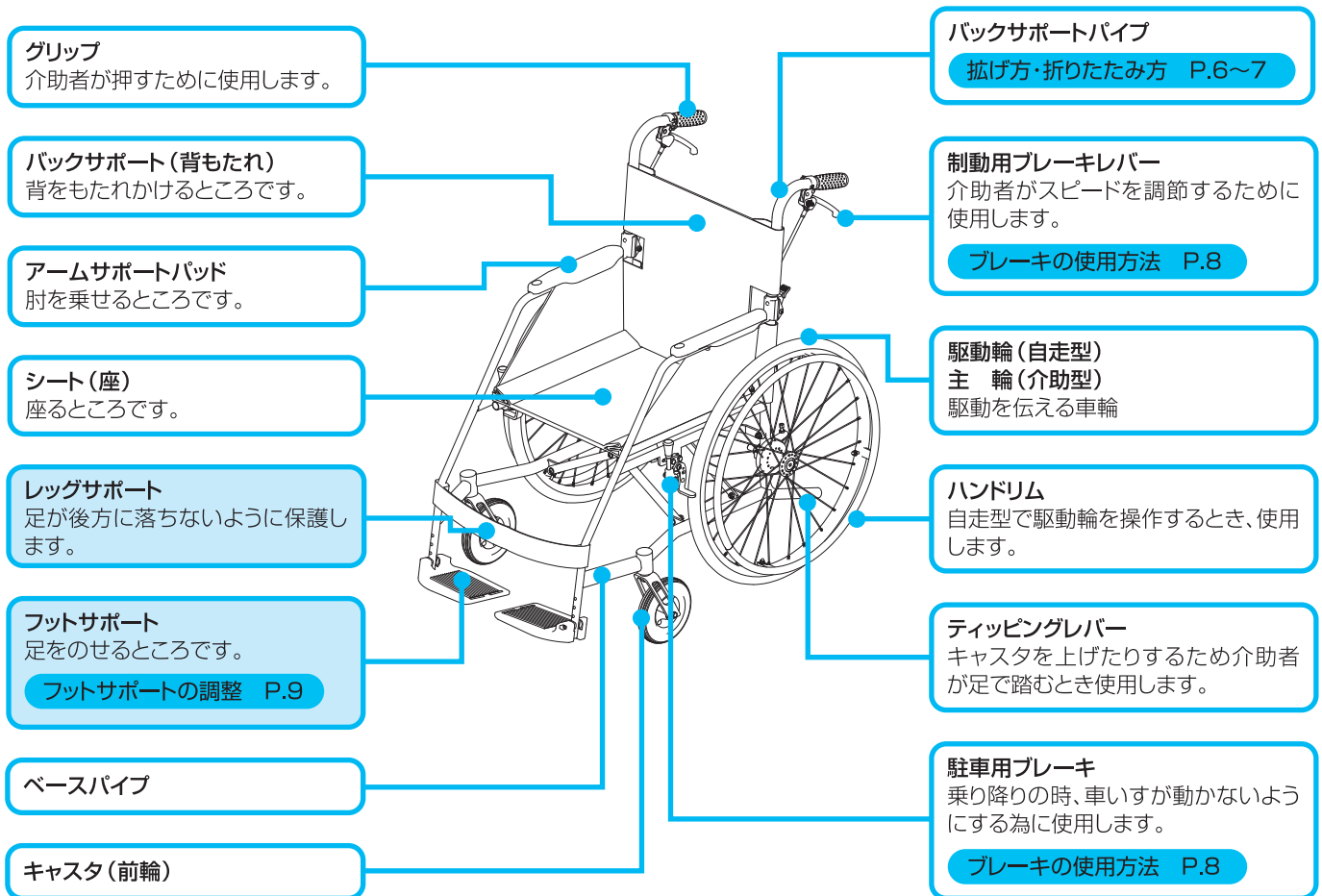
機種別寸法一覧

機種	キャスタ (呼び)	大車輪 (呼び)	前座高 (mm)	後座高 (mm)	全長 (mm)	全高 (mm)	全幅 (mm)	折畳み幅 (mm)	重量 (kg)
USL-1B	6	22×1	430	400	928	880	652	360	9.7
USL-2B	6	12×1・3/8	430	400	928	880	612	316	8.5

※1：座巾400時の数字です。

各部の名称

標準タイプ (自走・介助)

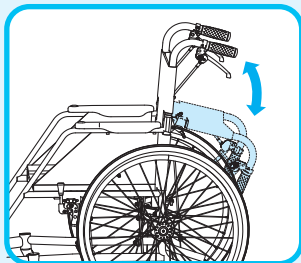


機種別機能一覧

機種	タイプ	バックサポート	アームサポート	フット・レッグサポート	ブレーキ
			機能	機能	種類
USL-1B	自走	折りたたみ	固定	固定	アルミタックル・ドラム式介助ブレーキ
USL-2B	介助	折りたたみ	固定	固定	アルミタックル・ドラム式介助ブレーキ

機能説明

〈バックサポート〉

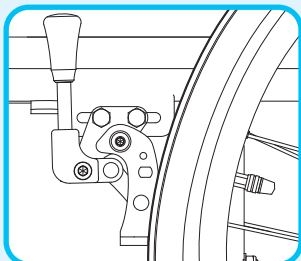


折りたたみ

背もたれが折りたたみで、自動車等への積み込みが容易に行えます。

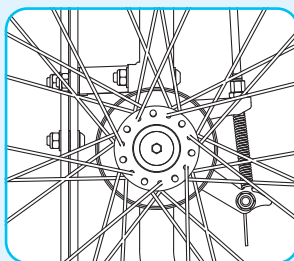
〈ブレーキ〉

アルミタックルブレーキ



駐車のブレーキです。乗り降りの際に車いすが動かないようにするために使用します。

ドラム式介助ブレーキ



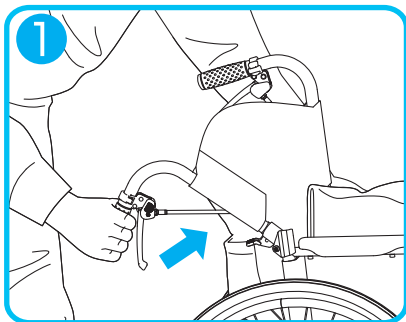
介助者のための制動用ブレーキです。走行中や坂道で速度を調整する際に使用します。

車いすの拡げ方・折りたたみ方

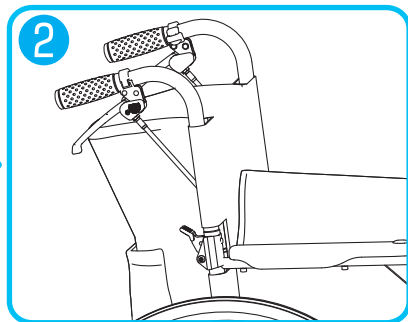
車いすの拡げ方

*バックサポートの折りたたみをおこす時は、車いすを折りたたんだ状態で行ってください。
(拡げた状態で行うと、背シートにバックサポートパイプが引っ張られ、ロック出来なくなります。
また、背シートの破損につながるので行わないようにして下さい。)

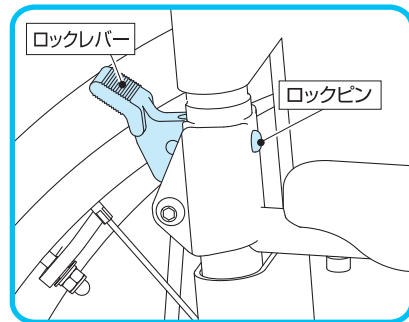
① グリップを持ち、矢印方向に、持ち上げる。



② バックサポートを両側起こす。



レバーを矢印方向に起こし
ロックピンが出ていることを確認する。



警告

●バックサポート折りたたみのロックピンが、確実に固定されていることを確認してください。
(転倒・転落事故の原因となります。)

していただく



警告

●バックサポート折りたたみのロックレバーに、かばんなどを引っ掛けないでください。
(ロックが解除され、転倒・転落事故の原因となります。)

してはいけない

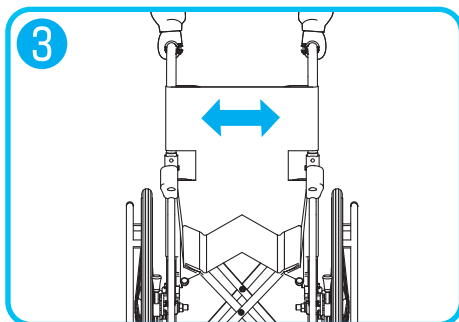


注意

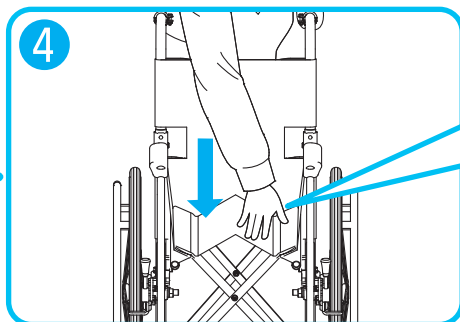
●バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
(車いすが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。)

してはいけない

③ 車いすの後方に立ち、左右のグリップを持って両側に拡げます。



④ 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、車いすが拡がります。



※手・指に注意



注意

●車いすを拡げる時に、座パイプの横や下に手や指を入れないでください。
(パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。)

してはいけない



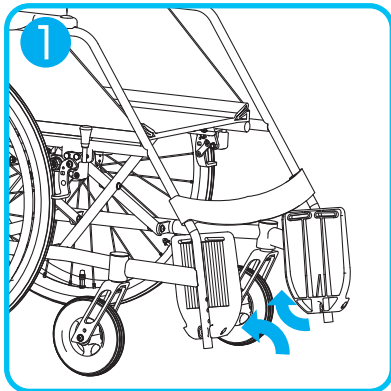
注意

●車いすを拡げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認してから座ってください。
(パイプが曲がったりして、転倒・転落事故の原因となります。)

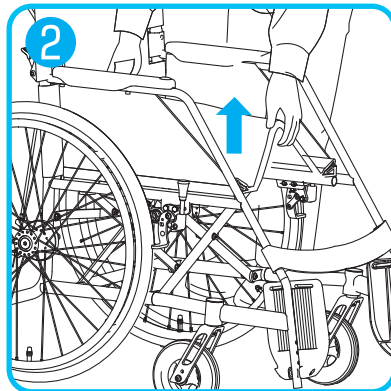
していただく

車いすの折りたたみ方

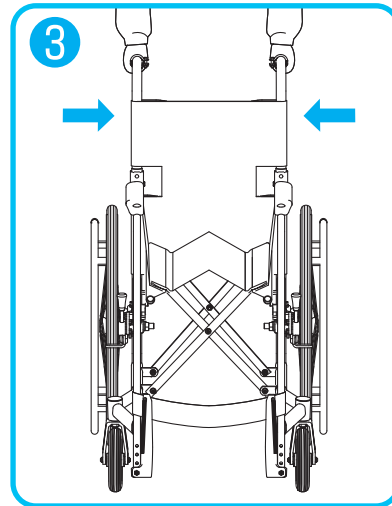
① フットサポートを矢印方向に回転させて上げる。



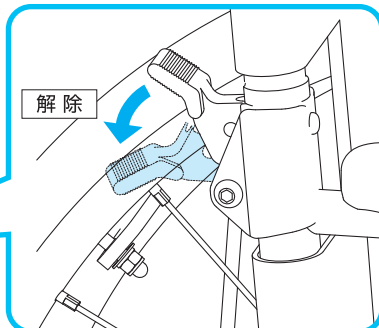
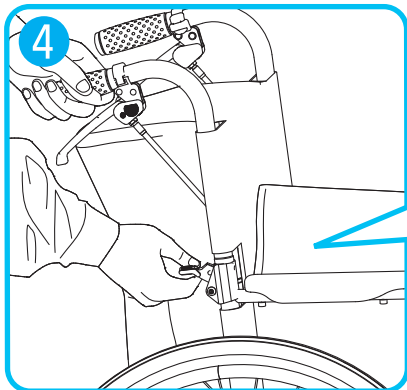
② シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げる。



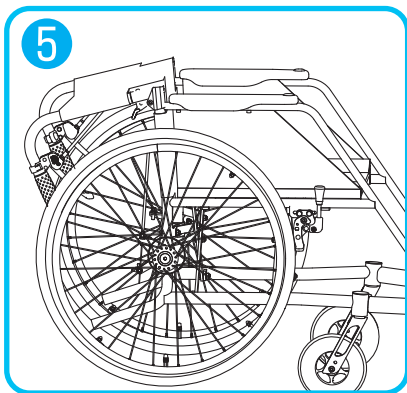
③ 左右のグリップを持ち、内側にたたむ。



④ グリップを片手で持ち、ロックレバーを後方に倒し、バックサポートを倒す。



⑤ バックサポートを両側後方に倒す。

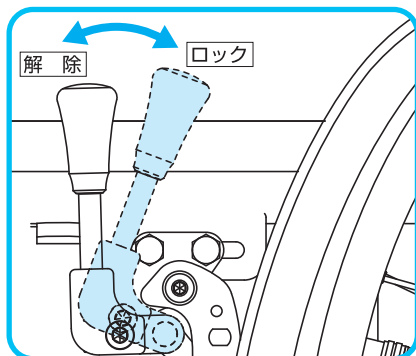


安全にお使いになるための使用方法

ブレーキの使用方法

アルミタックル

- 車いすをしっかり止める時に使用して下さい。
- ブレーキレバーを後方に引くとロックします。
- ロックした方向と反対に押しと解除します。



警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。(P.15 ご使用の前に参照)
(ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。)

してはいけない

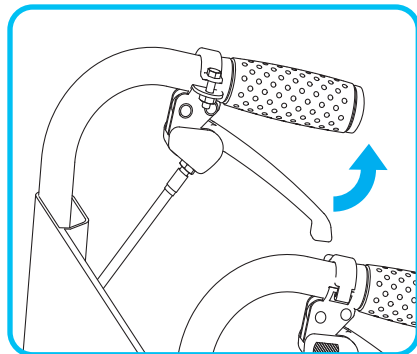
警告

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドなどへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒事故の原因となります。)

していただく

制動用ブレーキ

- スピード調節や止める時に使用してください。
- レバーを握るとブレーキがかかります。
- レバーを離すと解除します。



介助者の方が走行中や下り坂での減速及び停止にご使用ください。

注意

- 制動用ブレーキレバーを握る際には指を挟まないようにしてください。

していただく

注意

- 急ブレーキをかけないでください。
(車いすに乗っている方が前方へ転倒する恐れがあります。)

してはいけない

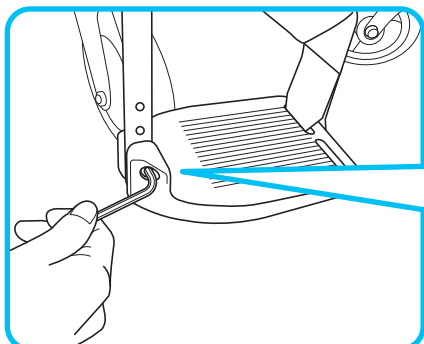
注意

- 介助者の方は、制動用ブレーキレバーを両側同時にかけてください。
(バランスを崩し、転倒事故の原因となります。)

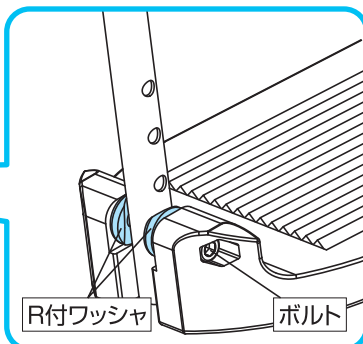
していただく

フットサポートの高さ調整

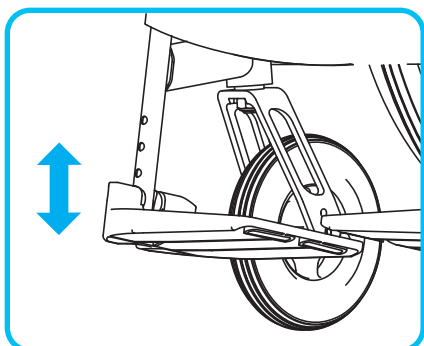
使用工具 ・ 対辺5mm 六角レンチ



フットサポートのボルトを外します。

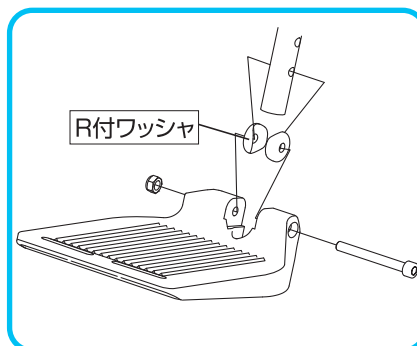


●フットサポートとパイプの間にR付ワッシャが入っています。

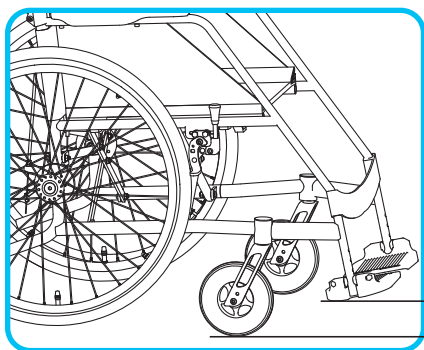


高さを調整し、ボルトを締めます。

※適正トルク
4Nm



フットサポートとパイプの間にR付ワッシャを入れてください。



↑ ↓ 5cm以上

! 注意

●フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。
(路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、転倒事故の原因になります。)

していただく

使用方法

乗り方・降り方



警告

●車いすに乗る・降りる前や、ベッドなどへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒事故の原因となります。)

していただく



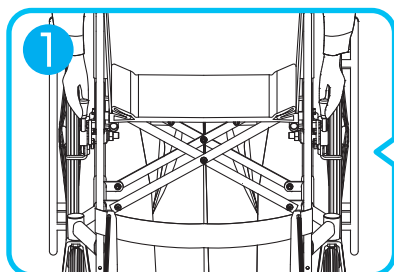
注意

●車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。
(車いすが動いたりしてバランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。)

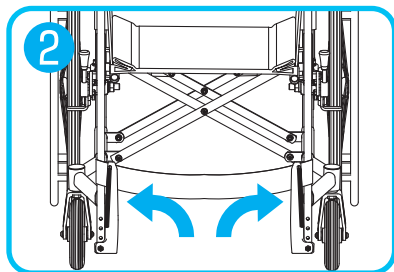
していただく

乗る時

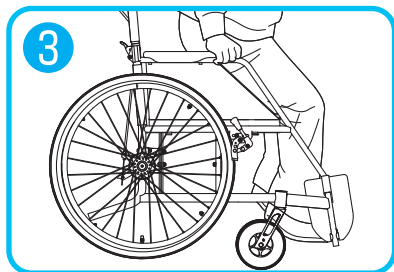
①ブレーキを両側ロックする。



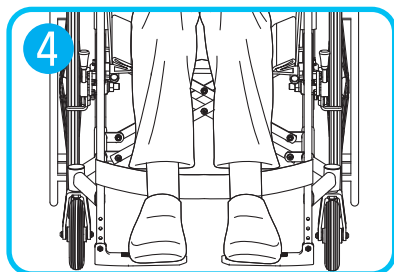
②フットサポートを両側上げる。



③両手で、アームサポートを持ちゆっくり座り込む。

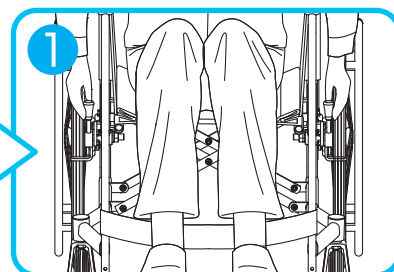


④フットサポートに足を乗せる。

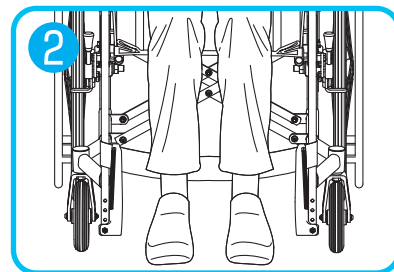


降りる時

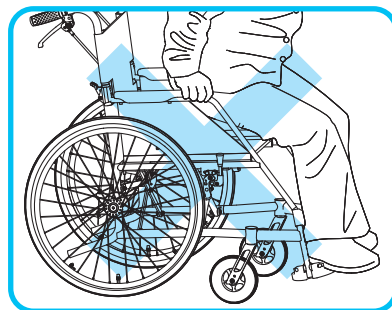
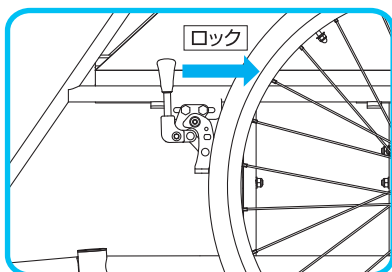
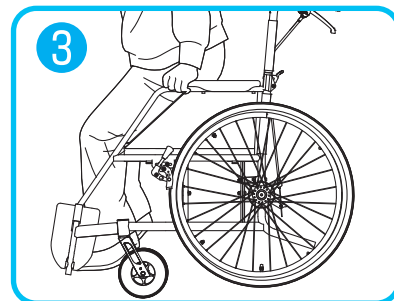
①ブレーキを両側ロックする。



②フットサポートを上げ、足を下ろす。



③両手で、アームサポートを持ちゆっくり立ち上がる。



警告

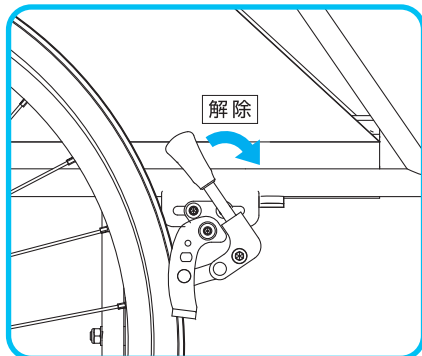
●フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
(車いすがバランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。)

してはいけない

動かし方

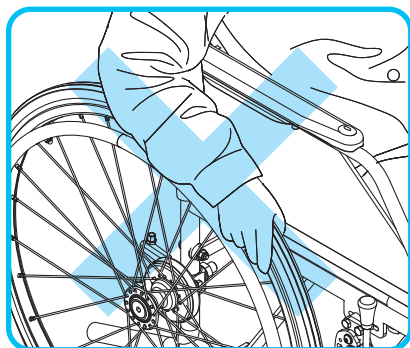
(自走用車いすの場合)

ブレーキロックを解除する。



ハンドリムを握り、車輪を回転させ移動させる。

ハンドリム



注意

- タイヤを持って車いすを操作しないでください。
(ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。)

してはいけない



注意

- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
(摩擦により、手にケガをする恐れがあります。)

してはいけない

※このような場合は、車いす用手袋のご使用をおすすめします。(別売)



注意

- 走行中、身体を乗り出さないでください。
(バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。)

してはいけない

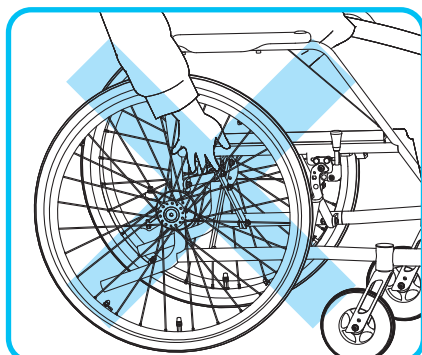


注意

- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
(手や指を挟んで、ケガをする原因となります。)

してはいけない

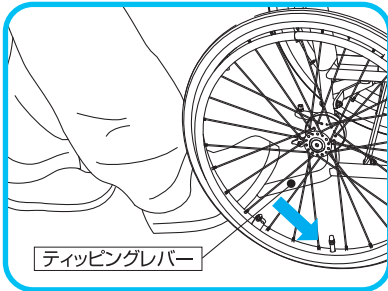
※このような場合にはスポークカバー〈オプション〉のご使用をおすすめします。



次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者の方が付き添ってください。

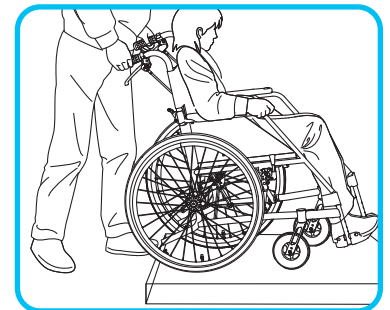
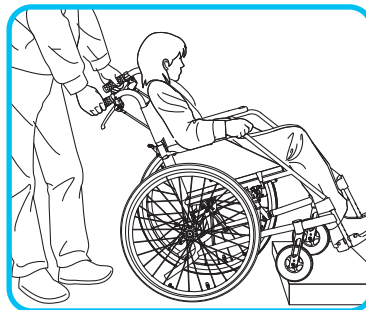
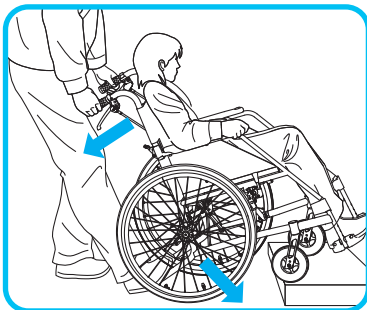
- ・坂道の登り下り
- ・踏切の横断
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・悪路
- ・電車への乗車、下車
- ・段差乗り越え
- ・路面が片側に傾斜しているところの走行

介助の仕方

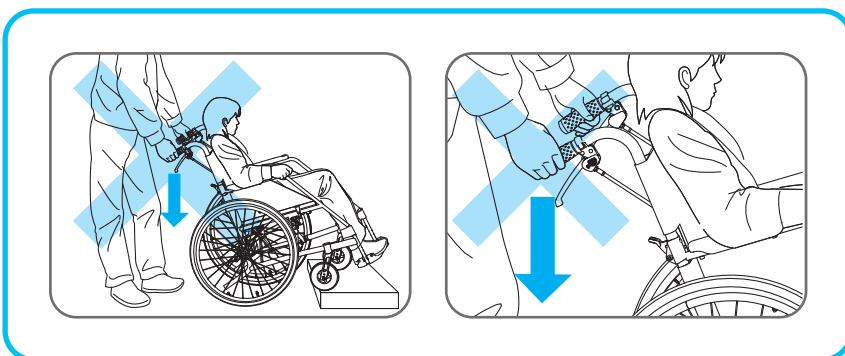


介助者援助をお願いしてください。

介助者の方は、段差を乗り越える場合は、ティッピングレバーを踏んでキャスト(前輪)を上げ、段差に乗せてから、後輪を浮かし乗り越えてください。



押し手グリップをななめ下にひきながら、ティッピングレバーをななめ前下方向へふみこむ。



⚠ 注意

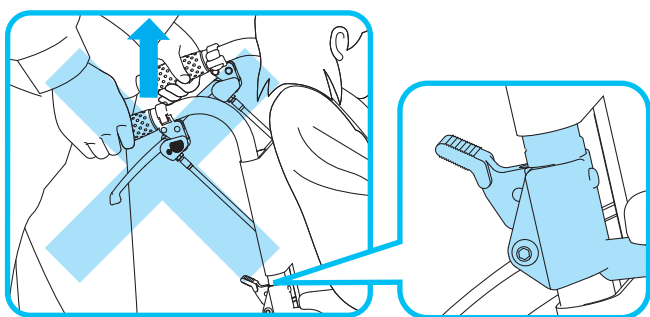
- バックサポートパイプのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。
(バックサポートパイプが曲がったり折れたりして、転倒・転落事故の原因となります。)

してはいけない

⚠ 注意

- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
(使用者が車いすから転落して事故の原因となります。)

してはいけない



⚠ 注意

- 使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。
(パイプが外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。)

してはいけない

車いすを持ち上げようとして次のような箇所は、持たないでください。

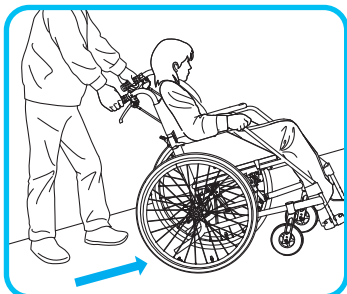
- ・バックサポートが折りたたみ式のバックサポートパイプ部

外出時の注意

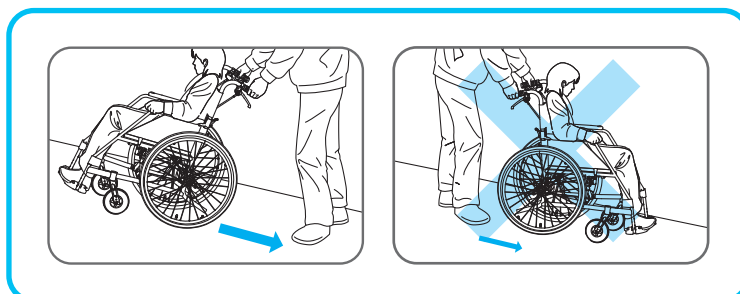
介助者援助をお願いしてください。

坂道の登り下りでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。

登り坂



下り坂

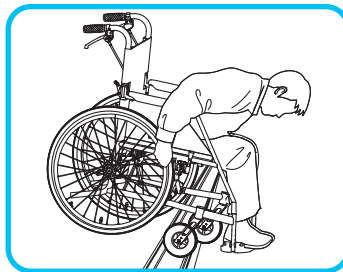
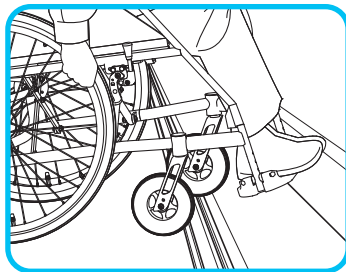
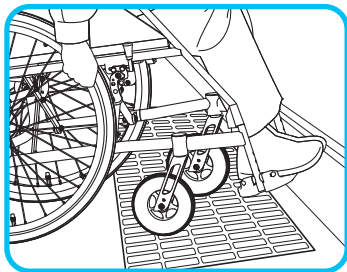


⚠ 注意

- 坂道を下るとき介助者の方は、下り坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに走行してください。
(前向きで下ると、乗っている人がすり落ちたり前のめりとなり、転倒事故の原因となります。)

していただく

介助者援助をお願いしてください。



警告

- 側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。
(車輪が溝に填り、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく

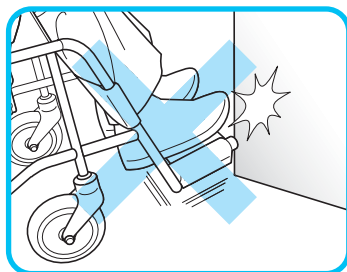


注意

- 側溝の格子蓋、踏み切りのレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。
(車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転落・転倒事故の原因となります。)

していただく

【介助者の方へ】



注意

- 移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。

していただく



注意

- フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

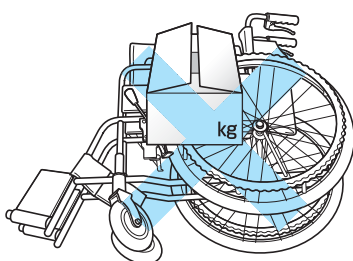
していただく



注意

- 車いすを、横向きに倒して上に物を置かないでください。
(重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因になります。)

してはいけない



■階段などで、使用者が乗ったままの状態、介助者に吊り上げてもらう場合

ベースパイプ・バックサポートパイプの固定されている箇所を持って、4~5人で支えてもらってください。

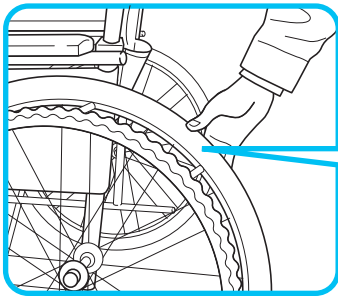
ご使用前に

■ご使用前に、安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

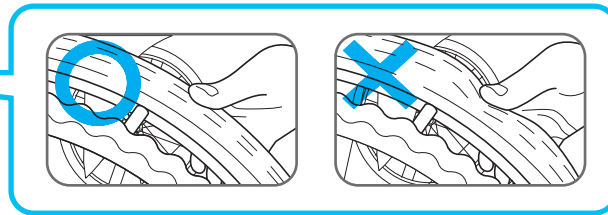
- ・タイヤの摩耗・亀裂はないか。
- ・タイヤの空気圧は適正か。
- ・ブレーキに異常はないか。
- ・ブレーキをロックした時、駆動輪・主輪が回転しないか。

※適正空気圧

- 自走22インチ
500kPa
(5.0kgf/cm²)
- 介助12インチ
350kPa
(3.5kgf/cm²)

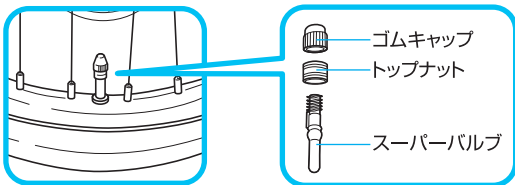


タイヤを親指で押し、容易にへこむ場合は、自転車用空気入れで空気を補充してください。



タイヤの空気バルブの
トップナットが緩んで
いないか確認してください。

タイヤの空気がすぐに
抜けるときは、スーパーバルブを
交換してください。



- ゴムキャップ
- トップナット
- スーパーバルブ

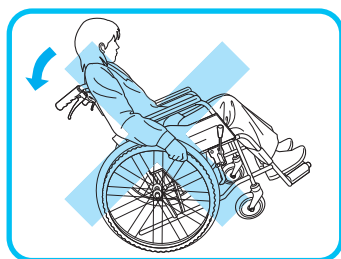


警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、
使用しないでください。
(ブレーキのロックが出来なくなり、車
いすが動いたりして、転倒・転落事
故の原因となります。また、タイヤの
パンクの原因となります。)

してはいけない

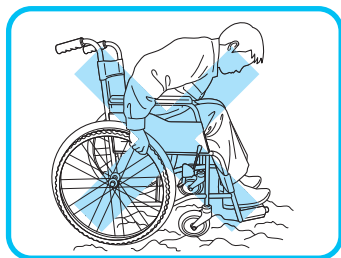
使用の際の注意事項



! 注意

●バックしながら急停止しないでください。
(後方転倒事故の原因となります。)

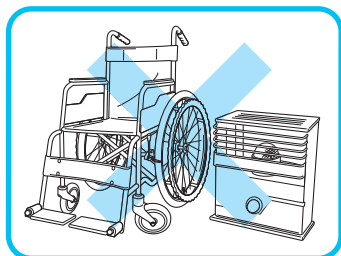
してはいけない



! 注意

●凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。
(バランスを崩し、前に転倒して事故の原因となります。)

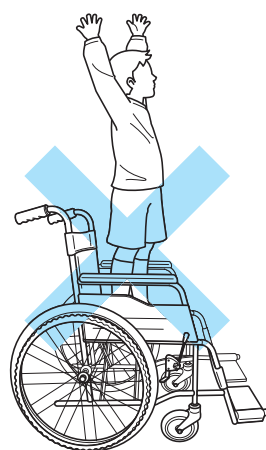
してはいけない



! 注意

●火気の近くに置かないでください。
(タイヤがパンクしたり、シートが燃え、火災の原因となります。)

してはいけない



! 注意

●車いすのシートの上で立ち上がらないでください。
(転倒・転落事故の原因となります。)

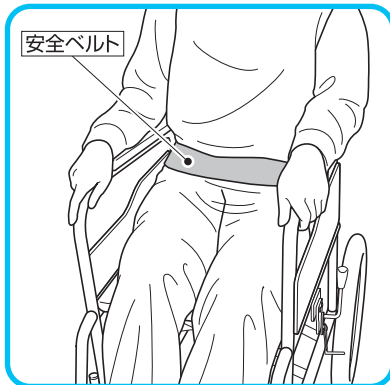
してはいけない

車いすのオプション

車いすをより使いやすくするために、いろいろなオプションが用意してあります。
(車いすにより取り付けできない場合がございます。販売店、または(株)松永製作所までご相談ください。)

安全ベルト

●使用者が、車いすから転落したり、ずり落ちるのを保護します。



⚠ 注意

●安全ベルト装着機種は、必ずシートベルトを締めてください。
(衝撃などで転落し事故の原因となります。)

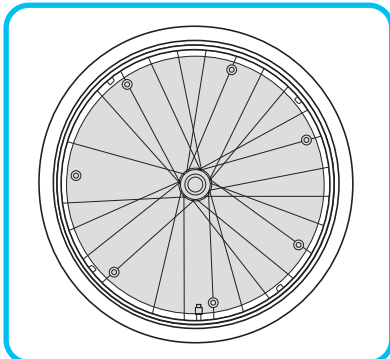
していただく

⚠ 注意

●マジック式安全ベルトの場合は、糸くずや汚れを取り除いてください。
(粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転落事故の原因となります。)

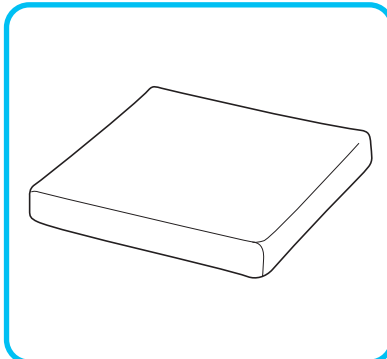
していただく

スポークカバー



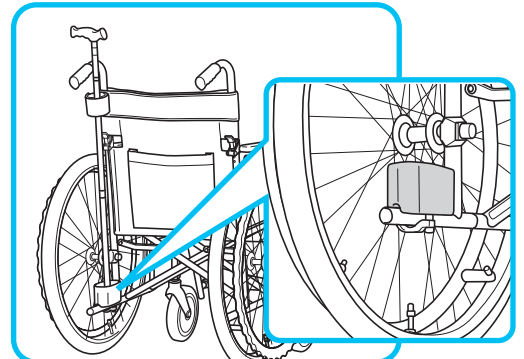
車輪(スポーク)に手を入れケガをする事を防止します。

クッション



体重の圧力を分散し、快適に座ることができます。
(いろいろな種類があります。)

杖入れ



車いす後方に、杖を収納することができます。

その他にも

- 波型プラスチックリング
 - ミニタックル
 - タックル延長棒
- などご用意しております。

詳しくは、カタログをご覧ください。

もしこんなトラブルが発生したときは

車いすをご使用されていて「故障かな」と思うトラブルが発生したら、修理を依頼するまえに下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処
タイヤの空気が少ない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
空気を入れてもすぐに抜ける	・タイヤの空気入れ部のネジは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください
	・スーパーバルブが劣化していませんか	スーパーバルブを交換してください
走行操作が重い	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・駆動輪・キャストに髪の毛、ビニール等が巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャスト(前輪)が片べりしていませんか	取扱店にご連絡してください
バックサポート折りたたみのロックピンが入らない	・車いすを払って、バックサポートを折りたたみしていませんか	車いすを折りたたんで、行ってください
制動用ブレーキが効かない	・ワイヤーが、ねじれていませんか	ワイヤーのねじれを調整してください
	・ワイヤーの遊びが多くありませんか	取扱店にご連絡してください
ブレーキが効かない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・タイヤは、摩耗していませんか	取扱店にご連絡してください

車いすのお手入れの方法

■清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。

揮発性剤（シンナー・ベンジン・アルコール類）では、清掃しないでください。

変色したり、劣化の原因となります。

ホースなどで直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部に水滴が残り、錆の原因となります。

■タイヤの空気圧は、最適空気圧を適正に保ってください。(P.15参照)

空気圧が少ないときは、補充してください。

■タイヤには、ひび割れを防ぐ為に老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン (O₃)
- 光線(日光)、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス(自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤(錆落とし含む))。

■車いすに異常がある場合は、取扱店で、点検・修理をおこなってください。

その状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤの劣化・ひび割れ・空気漏れ
- 各部固定部品の変形
- ボルト・ナット・ビスの緩み
- フレームのひび割れ・曲がり・ガタツキ
- 駆動輪・キャストの変形
- 制動用ブレーキ・駐車用ブレーキの効き具合

車いす 点検シート

安全にご使用していただくために、ご自身・お買い求めの販売店(有料)で定期的に点検をしていただくようお願いいたします。

(長期間ご使用にならなかった場合は、ご使用前に点検をしてください)

点検の結果、異常があった場合はご使用にならず、調整・部品交換をしてからご使用ください。

点検項目		年月日				
		点検者				
キャスタ(前輪)	亀裂・キズの有無					
	キャスタの摩耗					
	スムーズな回転					
フォーク	損傷の有無					
	スムーズな旋回					
後輪	タイヤの空気圧					
	タイヤの摩耗					
	スムーズな回転					
	ホイールのキズの有無					
	スポークの緩み(自走のみ)					
フレーム	各部キズの有無					
	ボルト・ナットの緩み					
	スムーズな折たたみ					
ブレーキ	ブレーキの効き					
シート	シートの破れ・損傷					
	シート固定ネジの緩み					
フットサポート	固定ボルトの緩み					
	プレートの破損					
アームサポート	固定ボルトの緩み					
	パッドの破損					
その他						

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。
故障の原因となります。

- 雨に濡れるようなところ ●直射日光が当たるようなところ ●湿気の多いところ
- 高温室になる場所 ●炎天下になる場所

保証

●保証期間は、お買上げ後1カ年です。(本体、付属品共)

ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。

1. 火災、天災による故障・損傷の場合
2. 取扱説明書に記載の使用方法・ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
4. タイヤの摩耗、パンク、シートのやぶれ、ブレーキ、制動用ブレーキのワイヤー、ブレーキゴム等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
5. 修理に要した運賃等の諸経費

この保証書は日本国内のみ有効です。

アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または(株)松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。